

第 1 回思川開発事業モニタリング部会 議事要旨

「第 1 回思川開発事業モニタリング部会」において、第 2 2 回思川開発事業生態系保全委員会での指摘事項への対応方針と令和 5 年度モニタリング調査結果等の審議を行った。

主な審議結果は、以下のとおりである。

- 環境保全地調査で確認されたオオコオイムシについては、陸上昆虫類等ではなく底生動物に分類すべきではないか。
- 送水時調査では、黒川及び大芦川取水放流工より下流の縦断的な水質変化を把握できるよう、黒川及び大芦川固定堰上流から日蔭橋（黒川）及び天王橋（大芦川）の間の複数地点で採水することが望ましい。
- ムカシヤンマ幼虫の移殖では、ひとつの湿地内で平面的に分散して移殖されていることから、追跡調査時点にムカシヤンマ幼虫の確認地点が集中する場合は、好む生息環境へ移動している可能性があるため、追跡調査で確認された地点の環境条件を整理することで、ムカシヤンマの生息環境の知見が得られると考えられる。
- 黒川及び大芦川取水放流工のような河川構造物の場合、固定堰上流は土砂の堆積、固定堰直下流は護床工付近の河床低下の進行などが予想されることから、起こりうる現象の推定と当該現象にかかるモニタリングを早期から行うことが望ましい。
- フォローアップ調査移行後には、黒川及び大芦川での堆砂の影響が議論されることを見据え、モニタリング調査段階から取水放流工の上流域及び直下流での堆砂に関する調査を計画しておくことが望ましい。
- 次年度以降のモニタリング調査計画については、工事や調査が進む中で見直しの必要が生じる場合があることから、部会の場などで詳細に議論できる機会を設けることが望ましい。

以 上